



# 学校だより

平成31年 1月 8日  
練馬区立田柄第二小学校  
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail [info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp](mailto:info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp)

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.490

## 失敗をカウントするな！成功をカウントしよう！

校長 谷田 弘子

### あけましておめでとうございます 今年もよろしく願っています

新しい年平成31年、平成最後の年が始まりました。3学期の始業式に、年末年始を家庭で過ごしていた児童が、一回り大きくなって学校に戻ってきました。さまざまな経験をして、たくましくなっているようです。3学期はあっという間に過ぎますが、新しい学年へのまとめとなる大切な時期です。さらなる成長を期待しております。

昨年末、『田二小 今年の漢字』を募りました。平成30年にふさわしいと思われる漢字を選び、理由を添えて出してもらい、結果を2学期の終業式で発表しました。一番多く書かれていた1位の漢字は『新』、新しい行事や活動が始まったという理由でした。三色対抗運動会、兄弟学級が始まり、ウサギが来たなど、新たな気持ちで活動に取り組んだようです。2位の漢字は二つあり、『楽』と『笑』でした。理由は、田二小と今年の学級は楽しいから、クラスが楽しくていつも笑顔が絶えないからということでした。その他には、『挑』さまざまな事に挑戦したから、『動』高学年になって学校のために動くことが多くなったから、『平』平成最後の年、平和だったからなど、一人一人の思いのこもった漢字を選んでくれました。

さて、「はやぶさ」をみなさんにご存じだと思います。太陽を回っている「イトカワ」という小惑星を調べるために地球から発射された探査機の名前です。「はやぶさ」は発射されてから「イトカワ」の表面にあるものをもって往復4年かけて戻ってくる予定でした。しかし、いろいろな故障が起きて予定より3

年間も遅れて地球に戻ってきました。戻ってきたというより、この探査機を作り上げたチームの人たちが、最後まで諦めず全力を尽くして戻したと言って良いかも知れません。

「はやぶさ」は「イトカワ」に着陸して1500もの粒をとって地球に戻ってきました。世界で初めての事でした。この話は、本や映画にもなり、人々に希望や勇気を与えました。この探査機「はやぶさ」のチームリーダーだった川口淳一郎さんの『失敗をカウントするな！成功をカウントしよう！』という言葉があります。川口さんたちは常に減点法ではなく加点法で考えて仕事に取り組みました。探査機の電気で動かすエンジンが3台同時に動いたら50点、エンジンが1000時間動いたら100点、「イトカワ」と一緒に太陽を回ること成功できたら200点、「イトカワ」の観測に成功できたら250点、「イトカワ」に降りて表面のものをとれたら275点、とったものを地球に持ち帰ったら400点というように、だんだん難しくなるごとに点数をあげて、それにチャレンジするように計画を立てました。ですから、途中でどんなことがあっても諦めず何とかするはずだと考え、あらゆる手立てを講じてとうとう一番高い500点の目標だった「イトカワ」のサンプルを手に入れることができたのです。

今年も昨年同様、新しいことに挑戦する一年になると思います。目標を決めて、これができたら10点、これができたら20点というように、できそうなこと、できるようになりたいことを考えて、加点法でやると夢が大きくなります。失敗をカウントするのではなく、成功をカウントし、一つできて終わりではなく、より大きな目標を目指していくような一年であってほしいと願っています。